

第 11 表

第 12 表

			R. P.	200	80	40	20	8	4	雨量	200	250	300	350	400		
			400年							150mm							
赤津浜 (米六)	和日	名野田 子市	252	232	202	180	163	145	120	R. P.	75	370	—	—	—	—	
			346	315	275	243	214	180	150	10	4	14	47	142	—	—	—
			345	315	271	239	208	140	121	9	18	51	145	—	—	—	—
			290	263	229	209	174	153	120	8	34	140	—	—	—	—	—
			361	327	282	263	235	187	157	—	10	29	115	320	—	—	—
松(波五大)	境	江(佐箇田)	282	252	224	200	182	156	127	7	40	187	—	—	—	—	
			310	282	245	219	205	151	126	8	18	90	310	—	—	—	
			437	395	339	294	264	208	140	4	7	16	44	95	203	—	
			457	411	348	309	282	224	163	—	6	12	32	82	170	—	
			269	245	217	202	169	147	120	9	38	232	—	—	—	—	
志川出市江		学本羽山津	348	315	269	238	209	181	136	5	15	52	147	—	—	—	
			315	282	246	219	205	159	125	6	18	88	290	—	—	—	
			335	302	272	260	214	162	118	7	16	34	190	—	—	—	
			336	305	273	255	213	172	133	5	15	37	175	—	—	—	
			327	292	270	257	233	141	122	9	14	33	175	—	—	—	
西大益掛塩		郷森田合治	258	238	209	186	170	151	128	8	61	300	—	—	—	—	
			266	245	216	201	180	149	107	8	39	234	—	—	—	—	
			292	266	244	230	193	161	115	7	23	102	—	—	—	—	
			331	301	258	235	213	160	142	6	16	63	195	—	—	—	
			240	220	193	176	166	141	116	10	102	—	—	—	—	—	
広西大三浦		瀬見袁成郷	334	303	262	237	213	187	126	5	13	58	188	—	—	—	
			339	306	264	245	230	168	143	5	13	48	175	—	—	—	
			356	322	276	241	208	168	125	6	16	48	130	350	—	—	
			299	270	233	208	191	165	121	6	29	121	—	—	—	—	
			254	232	203	183	153	143	129	15	72	350	—	—	—	—	

結 語

殆んど計算例を示したのみで、特に結論を述べる程のこともないが、月平均気温の分布は殆んど正規分布で境界値の計算は標準偏差と頻度から計算して充分である。降水量の場合には分布の偏倚が大きいのでやはり個々の資料について境界値を定めた方がよい。気温の標準偏差が特に7月大きいことは何も島根県のみ現象ではなく、日本全部の現象で、また高緯度で大きく、沿岸部で大きいことも共通しているようである。そしてこの原因は海流の変動によるらしいことを述べたが、さらに検討する要があるようである。R. P. については資料の關係

で日降水量のみについて計算したが、一般にさらに短時間のものの要求が多いので、この方面の調査も必要である。本調査は島根農科大学教授坂本四郎外数名の「島根の農業地域区分に関する研究」に対して提供された昭和27年度文部省科学試験研究費の一部を使用して完成したものでここに謝意を表する。

参 考 文 献

- 荒川秀俊：気候変動論
- 気象庁：気象官署予報業務則
- 気象庁統計課（1954）：日降水量 return period の計算法，電力気象連絡会彙報，Ⅰ，3，217～239。

新刊紹介 東京都の気候（東京都気象年報）
東京管区気象台 編 気象協会 発行
A 4 判 約 500 頁 定価 { 予約 1,700円
一般 2,000円

こんど「東京都の気候」と題して、東京都の気象資料、気候概要等をまとめた本が気象協会から出ることになった。この種の本が各地で出され、非常に研究者のために役にたっている。東京都の気候も東京管区気象台職員の永年にわたる努力の結果やっと出来あがったものであるが、気候変動あるいは気候の特性その他の研究に大いに役立つものと期待している。内容は

- 第1編 東京都の気候概要……気候の特色、気圧配置、四季の気候
- 第2編 気象災害年表……東京都に關係ある気象災害の記録を和銅年間（約1,200年前）から収録
- 第3編 東京の累年気象資料……明治9年（1876）～昭和30年（1955）の資料を約90種に分類記載。
- 第4編 東京都下各測候所の気象資料……大島、新島、三宅島、八丈島、鳥島の創立以来の資料
- 第5編 東京都下観測所の累年気象資料
となっている。大いに利用していただくことを希望したい。（三谷）